

9月半ばになっても、関東地方は夏の高気圧に覆われています。朝夕は少し涼しい風がふくようになりましたが……。コロナもまた、流行しています。皆様お元気でしょうか？

高齢社会への対応を探るイベント

減らそう！超高齢社会の「不安」と「困りごと」

10月21日(土) 13:30~16:00

ふれあいホール(けやきプラザ2階)

第1部 講演「住民カー支え合う地域のチカラ」
法政大学教授 宮城(みやしろ) 孝さん

第2部 こんなことを始めました！

この中で、会員の米川栄子さんと、和田三千代が発言することになりました。チラシを配布します。どうぞご参加ください。

～ ～ ～ ～

あびこ女性会議という団体があり、月1回定例会を開いています。9月の定例会で、栗原洋子さんが、下記の読書感想を発表されました。横山広美さんの著書「なぜ理系に女性が少ないのか」を読んでの感想を話していただきました。それを文章にさせていただきましたので、掲載します。

「なぜ理系に女性が少ないのか」(横山広美著)
を読んで 栗原洋子

著者は現在、東京大学国際高等研究所カプリ数物連携宇宙研究機構、副機構長、教授。

OECDの中で日本は大学大学院等の女性の理系割合が最低である。しかし、小中校時代の数学の成績は女性の方が上位であるのになぜ理系を選択しないのか？

結論から言うと、日本では女性の勉学(理数に限らず)を応援する風土がない。女性が優秀であることを誇れる社会ではない。また優秀な女性を歓迎する社会でもないということです。

ジェンダーバイアス(女性に対する評価や扱いが差別的であること)の例をいくつか紹介する。

あるオーケストラの団員募集の際、目視での演奏では女性の採用率は5~10%だったのに、ブラインドオーディションにしたら、50%になった。また研究論文の評価でも、名前を書かない方が評価が高い。

ジェンダーイメージ(男女の役割について固定的な観念を持つこと)の例として、男性向は機械工学。女性向は看護学、生物学。

ちなみに私はリケジョのはしりで、工学部卒ですが、同期の機械工学科には女性は皆無でした。

2021年の全国の高校で物理を専攻した女性は14%、物理の講座のない高校(女子校?)もある。しかし世界を見るとゲノム編集技術でノーベル賞を受けた女性が2名あり、数学のノーベル賞と言われるフィールズ賞も2名、COVID19ワクチンを開発したカタリンカリコも女性である。

日本の状況を改善するため内閣府男女共同参画局が主催した「理工チャレンジ(リコちゃん)」というイベントに以前、孫娘と一緒に柏の葉の東大キャンパスに行ったことがあります。参加者は少なく、無料の高級弁当が山ほど残っていました。

最後に理系女性を増やすには、幼児期よりジェンダー教育が大切であり、自立していない女性をもてはやす「かわいい」文化をなくしていきたいし、専業主婦は2億円損しているのだとも、知ってもらいたいと書いていました。

つまりはジェンダーフリーの社会が重要だと言っています。

10月定例会

日時 10月2日(月) 13:30~16:00

場所 我孫子南近隣センター8階 調理室

11月定例会

日時 11月6日(月) 13:30~16:00

場所 我孫子南近隣センター8階 調理室

会のことは、会報でもお知らせしますが、この会がどんなことを考え、活動しているかは、毎月の定例会に参加していただくと、良くわかると思います。そして、会としても皆様のご意見をいただける貴重な場所でもあります。是非多くの方のご参加を期待しています。

さようなら原発代々木集会

9月18日(月・祝) 代々木公園で、集会が開かれました。2011年に故大江健三郎さんや澤地久枝さん、鎌田慧さん達が、福島原発の事故を契機に「さようなら原発1000万人署名の会」を立ち上げられ、集会を開かれたのが始まりです。消費者の会も原発には反対してきました。「さようなら原発あびこ」という会を立ち上げて、皆様にも署名をしていただいたり、駅頭署名を実施したりしてきました。

今回の代々木集会は、若い方々の団体と合同の主催で「ワタシのミライイベント&パレード」という名前をつけて開かれました。我孫子からは7名が一緒に参加しました。メインステージのほかにミニステージがあり、さようなら原発と気候変動について話されました。私たちは、
武藤類子さん(福島原発告訴団団長)
鎌田慧さん(さようなら原発代表)
小出裕章さん(元京都大学原子炉実験所)
のお話を木陰で聞きました。

15時30分からは、渋谷コースのデモに参加。その中でも東海第2原発の危険性、廃炉をアピールする人々は一団となりました。祝日とあって沿道の人出が多く、盛り上がりました。

べにこうじ

紅麴色素について

カニカマをご存じと思います。カニではないが、カニと同様の味がするカニカマ。昨年、カニカマは誕生から50年を経て、今や国内外に普及しています。あのカニカマの赤い色素は、コチニール色素、あるいはベニコウジ色素です。

コチニールはご存じの通り、カイガラムシからとるので消費者は結構嫌がります。そこで生まれたのがベニコウジ色素です。

この色素を10月にアメリカのFDAとその後のEUへの申請をめざしているという院内学習会がありました。(9月14日参議院会館)

なぜ色素を申請するのだろうと不可解な気持ちで参加しました。

現在、日本の輸出拡大をするにあたって、障壁になっている既存添加物は4つ(クチナシ青色素、クチナシ黄色素、ベニコウジ色素、紅花色素)。このうち、クチナシ黄色素と紅花色素は事業者が撤退。ベニコウジ色素のみ、農水省の支援を受けて進んでいるとのこと。

遺伝毒性試験、ラットの90日間反復投与毒性試験、犬による90日間反復毒性試験、吸収・分布・代謝・排泄試験などで安全性が証明され、申請まであと少しの所に来たというのが現在。

学習会場ではこの試験の内容と結果、バイオテクノロジーを使った製造方法が発表されました。

色素ひとつでこんなに大変な試験がされるのか〜と正直、驚きました。

ベニコウジ色素がFDAに認められ、カニカマなどがアメリカへ輸出できるようになるというのはきっと日本企業にとっては大きなメリットになることでしょう。

でも、なぜ障壁になってきたのだろうか〜色素に危険性を感じていたからか?それとも日本からの輸入品を防ぐためなのか?

色素がないカニカマってカニカマじゃないし〜・・・でも、添加物はいらないけど・・・ますます不可解になってしまいました。(K)